

2010年12月ライオンズクラブ国際財団ニュースレター



ライオン各位

私はかつて耳にしたアフリカのことわざを忘れることができません。それは、「恵まれない人を助ける最良の方法とは、彼らの涙をぬぐってあげることだ」というものです。私たちライオンズは毎日これを行っています！私たちは助けを求める人々に手を差し伸べ、思いやりの心で彼らの涙をぬぐっています。世界中の子供たちの健康と教育を改善することが、その方法のひとつです。

先月、「ライオンズ-はしかイニシアチブ試験プログラム」の開始に際して、マルギットと私はエチオピアとマダガスカルを訪問しました。これらの国々でライオンズは1,000万人近い子供たちへの予防接種を支援してきました。素晴らしいことです！

はしかは、ワクチン接種による予防が可能であるにもかかわらず、子供たちの主な死亡原因となっていることをご存じでしょうか？今後3年間で、170万人の子供がはしかにより失明や死亡するおそれがあります。私たちライオンズはこれを防ぐことが可能ですし、また防がなければなりません！

マダガスカル農村イメシツカの医療センターで、私は予防接種を受けるために生後9か月の長男を連れてやってきたマリー・ルイズ・ラザフィンドラザナナさんに会いました。彼女は娘さんをはしかで亡くしたため、この病気の危険性を良く知っていました。私は彼女の涙をぬぐってあげたいと思いましたが、彼女は涙の代わりに、希望と感謝の笑顔を私に見せてくれました。エチオピアにも彼女のような経験をした人々がいます。しかし、彼女たちのような母親は、私たちライオンズが子供達に健康な人生という希望を与えることを知っています。

ライオンズは子供たちの生活の質の向上に長年取り組んできました。教育を改善し、大切なライフスキルを育成することも生活の質の向上につながります。両国の政府高官との会合で、はしかプログラムへの政府の全面的な支援が保証されました。また、両国でのライオンズクエストの開始にも高い関心が示されました。

ライオンズクエストが若者の健康を向上させる鍵となり得ることを、世界の多くのリーダー同様に両国政府も認識しています。政府だけではこれを成し得ません。実際に成果を上げるためには、私たち全員が協力しなければなりません。

このような国々の訪問により、私は、財団が支援を求める人々のために行っていることの意義を認識するとともに、まだ私たちができることが多いことも実感します。ライオンズの皆様、財団を通じて若者の涙をぬぐい、より健康でより明るい明日への希望を彼らに与え続けましょう。

草々

エーベルハルト・J. ヴィルフス

